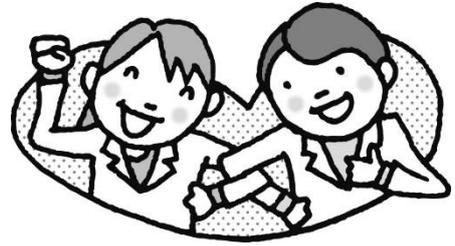


## 令和6年度 性に関する講話について

1. 日時 令和6年11月19日(火) 2時間目
2. 場所 体育館
3. 対象者 2・3年生
4. 講師 岐阜県警本部 少年育成支援官 清水 様



### 5. 講話のねらいと内容

性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、自分の生命を大切にする考えや相手を尊重する態度等を、発達段階に応じて身につける。

少年育成支援官の清水様より、性暴力や性被害の現状と被害者にも加害者にもならないために大切なことを教えていただきました。

特に、人にはプライベートゾーンや境界線があり、相手の気持ちを尊重して、距離感を考えて接することは、日常の人間関係の中でも大切なことだということを学びました。

また、イギリスの警察が作成した紅茶を相手に飲ませることを例にした性的同意についての動画を基にした説明では、多くの生徒がより具体的に同意の重要性についてイメージをもつことができました。

インターネットやSNSでの事例についても取り扱い、改めて身近にも危険が潜んでいることを知ることができました。

### 6. 生徒の感想

去年も聞いたけど、この一年私自身は何もなかったからまた他人事として考えていたけれど、やっぱり他人事ではないということを改めて思った。

相手が嫌じゃないか考えたり、自分がされたらどう思うかなどしっかり考えたりして行動していきたい。

性的同意について、紅茶に例えると当たり前前に思えるのに、実際に多くの被害が起きていることから、私たちもこのような講話の機会を通してしっかり受け止め、大人になっていくことが大切だと考えました。

性だけではなく、日常のことも許可をとったり相手の事を考えたりして行動しないと、相手が嫌がることをしてしまうかもしれないなど思いました。

イタズラでも相手の同意がないと犯罪や性暴力になるということを詳しく聞いて勉強になりました。

束縛をすることはいけないことだと分かったから、友達と関わる時にも自分の意見を押し付けないようにしたいと思った。

インターネットやSNSで騙されて性被害に遭わないためにも、考えて使わなければいけないと思った。

性＝生命と聞き、確かにその通りだと思った。

また、他人、自分を大切にしようと思った。そのために嫌なことは嫌と言おうと思った。

人の境界線を越えないように相手のことを尊重していこうと思いました。

また、自分のことも大切にしていこうと思いました。

自分が嫌なことを人にするなというけれど、自分は良くても人にとっては嫌なこともあるのだと思った。

また、性的暴行の加害者は被害者の顔見知りが多いと聞いて驚いた。

人との境界線を意識して、人権を侵害しないように気をつけて生活したり、嫌なことはいやだとはっきり言ったりできるようにしたい。

